

日本神話：黄泉の国へ

イザナギは、愛するイザナミの死に耐えきれなくなり、彼女を死者の住む黄泉の国から連れ戻すことを決意します。彼は黄泉の国まで旅をしてイザナミを見つけ、生者の国に戻って共に国造りを完成させるよう、彼女に懇願しました。しかしイザナミは、死者の国で作ったものを食べてしまったため、もう戻れないと答えます。イザナギは何度も、イザナミに黄泉の神々を説き伏せるよう促しました。彼女はそれに頷きましたが、イザナギに待っている間は彼女を見ることを禁じました。しかし、待ちきれなかったイザナギは、説得中にイザナミの方を向いてしまい、ひどく腐った状態のイザナミを見てしまいます。

激怒したイザナミは、地獄の女たちを呼び出します。この鬼たちは逃げようとするイザナギを追いかけますが、彼は後ろに種を撒きながら走りました。この種は、地面に落ちるとすぐにブドウの木などの植物に成長し、女たちの気をそらしました。イザナギは、追っ手を振り切るために、古代日本では神秘的な力を持つとされていた桃を投げました。イザナギは黄泉の門を抜け出し、イザナミがたどり着く前にその道を巨大な丸い石で塞ぎました。イザナミは岩越しに夫を呪い、毎日 1,000 人の命を永久に奪い続けることを誓いました。イザナギはそれに対抗し、毎日 1,500 人の赤ん坊を世に送り出すことを誓いました。このやりとりは、古代日本で想定されていた人口増加ペースに基づいたものだったのかもしれませんが。